

資料活用能力を育て、考える力を培う社会科の学習

資料を効果的に活用した歴史学習の実践

社会科研究会議

研修員 南谷 隆行（川崎市立稲田小学校）

小林 勝弘（川崎市立宮前小学校）

吉村 尚記（川崎市立塚越中学校）

稲毛 伸幸（川崎市立 橋 中学校）

研修指導主事 前島 和樹

主題設定の理由

今年度より学習指導要領が実施となり、そこに示された目標や内容は、各学年・各分野においてすべての児童生徒に身に付けさせたい必要最低限の事項となった。そこで改めて社会科の基礎・基本とは何かということがさかんに論じられている。

社会科において、児童生徒に獲得させたい知識は何か。社会に対するどのような見方や考え方を育てるのか。児童生徒にどのような技能や能力を身に付けさせるのか。さらに、児童生徒に養いたい態度はどのようなものかなどを明らかにし、学習活動の過程において適切に位置付けることがとても重要である。そこで本研究会議では、その中の「能力」、特に資料を活用する力に着目し、その効果的な活用が「考える力」を深め、さらに、社会的な見方や考え方を身に付けさせることにより社会科の学習の目標である公民的資質の向上の基礎・基本になると考えた。

考える力を培うために単元の中に資料の活用を位置付け、考える場面を設定し、そのための適切な資料の収集・選択や提示方法（資料の教材化）を考え単元構成を見直すことにした。また、小学校・中学校に関連した単元・分野ということから、本研究会議では歴史学習における資料の活用に焦点を絞り研究を進めることとした。このようなことから、「資料活用能力を育て、考える力を培う社会科の学習 - 資料を効果的に活用した歴史学習の実践 - 」を研究主題に設定した。

研究の内容

1 資料活用能力と考える力

社会科の基礎・基本は、理解（学習指導要領の内容）・能力（調査・観察力、資料活用能力、思考力、表現力など）・態度（その後の学習や生活の中で生かすことができる国や地域、社会的事象に対する愛情）の観点から培っていくが、その中の能力を構成する一つの要素が資料活用能力である。他の教科に比べて、社会科では資料活用能力の育成を目指した学習活動が多いため、ここで改めてその中身について考えてみることにした。

本研究会議では、資料活用能力を次の3つに分類した。

収集・選択（小学校）、収集・選択・活用（中学校）

何を知りたいのか、そのためにはどんな資料が必要なのかをはっきりさせて集める。また、集めた資料をさらに学習問題に照らし合わせて選ぶ（中学校では、さらに選んだ資料を適切に活用する）。具体的には、人に話を聞いたり、地図や統計資料、年表から見付けたり、インターネットのホームページから必要な情報を選んだりすることなどが考えられる。

分析・整理（小学校）、考察・整理（中学校）

収集した資料をノートなどにまとめ、それを基に何が読み取れるか考える（中学校では分析し、そこからより考えを深める）。具体的には、2つの資料を比較して考えたり、1つの事象から別の事象を関連付けて考えたり、多面的・多角的に考えを深めたりすることなどが考えられる。

観察・表現（小学校）、技能・表現（中学校）

分析・整理または考察・整理した内容（過程）を文章や絵、新聞などで他に表す（中学校では、表現したものを効果的に使いながら発表し合い、さらに高める）。具体的には、文章に的確な絵地図や表、グラフ、年表、統計資料などを取り込んで効果的に表したり、ホームページやEメールを作り、外部へ発信したりすることなどが考えられる。

この分類した中から、主題にある「考える力」を深めるためには、 と の過程がとても大切にな

ってくる。もちろん、学習過程は多岐に渡るため、様々な場面で「考える力」には繋がっていくだろうが、より「考える力」に結び付く効果的な方法として、次の2点に留意した。

- ・学習過程の前半で行った資料収集（特に聞き取り調査など、児童生徒自身の足で行った生きた資料の獲得）が、後半に設定した話し合いなどの考えを深める活動にどのように生かされていたのかに留意する。資料が収集しやすい戦後史の単元の中で、小学校・中学校同じような内容の単元を取り上げ、聞き取り調査から児童生徒の「考える力」がどのように深まってくるのか。特に中学校では、社会的事象に対しての多面的・多角的なものの見方や考え方が育つのではないか。
- ・意図的、計画的に教師が提示した資料が、考えを深める活動にいかにか効果的であったのかに留意する。単元の目標をしっかりと見据えて、資料から何を考えさせたいのか、資料の提示の仕方と時期は適切か、資料の価値はどうなのかなど資料のねらいをはっきりさせた上で、意図的、計画的に教師から提示することが単元を構成する時に必要ではないか。

以上を研究の視点とし、小学校、中学校それぞれの単元を通して検証していくことにした。

2 検証授業1（小学校6学年）

（1）テーマに迫るための授業の実践

1, 単元名 小単元 「戦後の復興と東京オリンピック」

2, ねらい 東京オリンピック開催に向けての鉄道や道路の整備、テレビの普及など高度経済成長期の国民生活の向上の様子を具体的に調べることを通して、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解させる。

3, 評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

戦後の復興や発展に関心をもち、国民生活の向上の様子について祖父母や父母、地域の方から聞き取り調査を行ったり各種資料で調べたりしようとする。

【社会的な思考・判断】

終戦直後と東京オリンピックが開催された頃の比較から自分なりの問題意識をもち、東京オリンピックの果たした役割やその時代に生きた人々の願いについて考えることができる。

【観察・資料活用 of 技能・表現】

各種資料や聞き取り調査から我が国の復興の様子や当時の人々の願いや苦勞を調べ、まとめ、発表し合う。

【社会的事象についての知識・理解】

東京オリンピックの開催を通して戦後日本が民主的な国家として再出発し、国民生活を向上させたり、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたりしたことが分かる。

4, 学習の流れ（学習時間 5時間）

<p>資料1(年表) 「運輸・交通の面から見た戦後の復興」 資料2(写真) 「ホテルニューオータニ」 資料3 「建設中の競技場や周辺の写真, 関係街路網図」</p>	<p>この年表からどんなことがわかりますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争が終わってから交通が発展してきている 高速道路の建設 ・1964年 首都高速・東京モノレール・東海道新幹線 どれも東京に関係している ・【資料2(写真)】 教科書の年表から「東京オリンピックのために整備していた」 他にはどのような準備が進められたのだろう【資料3】 東京オリンピックを開催するために国をあげていろいろな準備が進められた
--	--

<p>資料4(グラフ) 「家庭電化製品の普及率」</p> <p>(本時) 資料5(VTR) 「東京オリンピック開会式」 資料6 「最近の聖火ランナー一覧」 資料7(カード) 「坂井義則 19歳大学1年生 1945年8月6日広島県出身」</p>	<p>東京オリンピックの頃、人々の生活はどのように変化していったのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1960～70年頃に電気洗濯機、電気冷蔵庫、白黒TVの普及率が急速に伸びている ・終戦直後の食料も無かった頃に比べると生活がかなり豊かになった <p>この頃、人々はどのような気持ちで生活していたのだろうか【聞き取り調査へ】</p> <p>調べてきたことを発表し、当時の人々の思いやくらしぶりについて考えよう</p> <p>戦争が終わってから約20年、人々のくらしは大きく変化してきた</p> <p>敗戦直後の貧しさから立ち直ろうとした人々は一生懸命に働き、自分達の生活を向上させ、国も発展させてきた</p> <p>開会式で坂井さんが聖火を点灯することにどのような意味があるのだろうか</p> <p>日本が敗戦から立ち上がったことを世界に伝えようとしている</p> <p>唯一の被爆国である日本から世界へ向けての平和のメッセージ</p> <p>生活の向上や国の発展のために一生懸命に働いてきた日本人々も坂井さんの姿を見て勇気付けられたのだろうか</p> <p>日本はこれから国際社会の一員として、どのような役割を果たしていくべきなのだろうか</p> <p>戦争をしないで豊かな国を目指す 他の国と仲良く助け合う</p> <p>優れた技術を世界のために役立てる 一人一人が努力することが大切</p>
---	--

(2) 考えを深めるための資料と教材化

本単元では、東京オリンピックの開催を通して高度経済成長期の国民生活の向上の様子を具体的にとらえるとともに、平和の祭典とも言われるオリンピックをアジアで初めて開催することにより、我が国が民主的・平和的な国家として世界に貢献するようになったことに気付くことをねらっている。

そのため単元の前半では、鉄道や道路などの発達の様子からオリンピックの開催に向けて都市整備が進められたことや、同じ時期に電気洗濯機や電気冷蔵庫・テレビなどの家庭電化製品が急速に普及し、国民生活が向上してきたことをとらえられるようにした。また、このような成長を支えた国民の努力や思いに目が向けられるよう聞き取り調査をし、懸命に努力してきた人々の様子や生活が豊かになっていく様子を具体的に考えられるようにした。

資料活用能力を育て、「考える力」を培うという意味で上記の資料5～7を提示した。(P参照) 最終聖火ランナーの坂井義則氏の生い立ちと我が国の戦後の復興の道のりとを重ね合わせて考え、坂井氏が世界中が注目する開会式で最終ランナーとして選ばれたことの意味を考えることで東京オリンピックの開催が我が国の戦後の復興に果たした役割や価値に目を向け、単元のねらいに迫れるのではないかと考えた。

(3) 歴史単元としての聞き取り調査

本単元で取り扱った戦後の歴史は他の歴史単元の学習と違い、児童の父母や祖父母・身近にいる地域の人々が実際にその時代を体験しているため、学習の流れの中に聞き取り調査を位置付け、身近な人々の体験として収集してきた情報(資料)がその時代の様子を具体的に・共感的に考えるために有効であると考えた。また考えを深める場面でも、オリンピックを開催できることの喜びやそれを見守る人々の晴れやかな気持ちに目を向けて考えたり、聖火最終ランナー坂井義則氏の歩みと戦後の日本の歩みを重ね合わせて考えたりする際に、聞き取り調査が有効であった。

(4) 実践を終えて

最終聖火ランナーに視点を当て、敗戦から立ち上がり世界に向けて貢献しようとする日本の姿と重ね合わせる学習は、児童にとって興味深い学習となった。今回の実践では、単元のねらいに迫るために「戦後の復興」「国民の努力」「世界への貢献(平和)」という3つのキーワードを設定し、教師が意図的、計画的に考えさせる資料を提示することで、東京オリンピックが我が国の歴史に果たしてきた役割や価値について考えることができたのではないかと推測する。

3. 検証授業2 (中学校3学年)

(1) テーマに迫るための授業の実践

- 1, 単元名 「現代の日本と世界」 国際社会への復帰
- 2, ねらい 戦後の混乱と連合国の占領の中、国家の再建と民主化を目指して様々な改革が進められ現代の日本の骨組みが作られたことを理解させる。また、国民が様々な苦難を乗り越えて日本の復興に努力したことを気付かせ、我が国の民主化と再建の過程が平和な道で復興したことを、世界の動きと関連させて理解させる。米ソの対立、アジア諸国の対立、国際協調の動きを大観させ我が国への影響を考えさせる。

3, 評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

戦後の復興や国際社会に復帰するまでの日本の民主化と再建の過程に関心を持ち、意欲的に調べようとする。

【社会的な思考・判断】

戦後のアメリカの民主化政策や当時の世界情勢から、日本政府はどういう国づくりを進めていったのか、多面的・多角的に考えることができる。

【資料活用の技能・表現】

各種資料から当時の生活の様子や国民の努力にかかわる資料を選択することができる。
資料に基づいて日本の民主化について説明できる。

【社会的事象についての知識・理解】

日本の民主化と再建の過程を理解し、世界の動きと関連させて日本の国際社会への復帰について理解できる。

4, 学習の流れ (学習時間 6時間)

<p>資料1 (写真) 「終戦直後の様子、荒れ果てた国土」 資料2 (プリント配布) 「GHQの民主化改革」 資料3 (プリント配布) 「日本国憲法」 資料4 (語り部登場) (本時) 資料5 (写真) 「戦中・戦後の市民の生活の写真」 (食事の様子) 資料6 (プリント配布) 「聞き取り調査のまとめ」 資料7 (写真) 「終戦直後の川崎の街、復興している川崎の街」 資料8 (グラフ) 「実質経済成長と輸出の成長のグラフ」</p>	<p>ボロボロになった日本で、国民が望んだものは何だろう</p> <ul style="list-style-type: none">・ 連合国の行った政策はどういうものだったのだろう 民主化改革・ この改革によって、人々は安心して生活できるようになった・ さらに憲法を制定するんだけど、どんな憲法だろう 資料3・ 終戦直後の人々のくらしを想像してみよう <p>終戦直後の生活の様子を質問してみよう</p> <ul style="list-style-type: none">・ 終戦直後の様子や当時のくらしぶりを話してもらおう (戦後一番楽しかったこと、希望、夢、一生懸命働いたことなど) <p>この写真を見て、気がつくことをあげてみよう</p> <p>笑顔が見える 貧しいけど、楽しそう 戦争が終わってほっとしている</p> <ul style="list-style-type: none">・ この時の国民の願いはどうだったのだろう 資料6 <p>貧しさから早く抜け出したい 平和で豊かな国に変わりたい 住む所や食料に不自由しないくらし</p> <ul style="list-style-type: none">・ 写真とグラフを見てこの時の国民の努力を考えてみよう <p>国を復興するために必死だったと思う 日本を豊かにするために必死に働いた 街をつくるために国民全員で働いた</p> <p>日本が民主的な国に変わって復興を進めている時、経済も一気に成長している時期があるんだけど、何が関係していると思う</p> <ul style="list-style-type: none">・ 特需景気によって、人々のくらしはどうなったのだろう
---	--

<p>資料9 (カード) 「1951年」 「サンフランシスコ講話会議」 「連合55か国」 「日本と調印48か国」 資料10 (地図) 「調印した国としなかった国」 資料11 (年表)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>景気がどんどんよくなっている時に、戦後たった6年で日本は独立を果たしたんだ。これで国際社会へ復帰できたのかなあ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・なんで、独立を認めてくれなかった国があるのだろう ・世界情勢を見て、気がつくことをあげてみよう。米ソの対立 ・調印しなかった国にはどんな特徴があるのだろう ・日本の独立は、アメリカの意向がとて強かったことがわかるね <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>日本に本当の独立が訪れる時というのは、調印しなかった国に独立を認めてもらうことだね。それはいつだろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・日ソ共同宣言によりどんなことがおきたのか。国連加盟 ・ボロボロだった日本が世界の中で認めてもらえた要因は何だろう ・戦後のこの時代のキャッチフレーズをつくろう ・「の時代」理由をつけて説明してみよう
---	--

(2) 考えを深めるための資料と教材化

生徒が戦後の日本の様子を考えると、廃墟と化した街なみや物資不足といったメディアからの情報で戦後をとらえがちである。便利で何でも物がそろっている現代に生きる生徒には、その時代の人々の願いや思い、また、我が国を復興させた努力は想像しにくい。我が国が民主的で平和的な文化国家への道を歩み、やがて独立を回復して国際社会への復帰を果たした過程を世界の動きと関連させて理解させるとともに、国民が苦難を乗り越えて新しい日本の建設に努力し今日の発展の基礎を築いて言ったことに気付かせる。

この単元では戦後の復興の場面がとらえやすい資料を用意し、語り部の人のお話で、資料と実際の様子を関連付けられるように工夫した。さらに人々は、家族のため、日本の国のために必死に働いて、国民生活が向上し、日本の国際社会への復帰に繋がって言ったことを理解させるようにした。

(3) 歴史的分野としての聞き取り調査

この単元では事前に自分の祖父母や周りの人に戦中・戦後の生活について取材活動を行って、実際の生活の様子を調べ、学習過程の中で戦後の復興から今日の社会に至るまでには、多くの人々の努力の上に成り立っていることを実感させることをねらい、単元構成をした。調べる活動や聞き取り調査を行ったあとに資料7・8を提示することでその時代背景をより具体的にすることで、生徒は、当時の国民の努力や願いなどを「生活をしている国民」・「国政に携わっている政府」・「世界の国からみた日本」など様々な立場で考えることができた。この中で、中学校社会科で目指している社会的事象に対する多面的・多角的なもの見方や考え方が育っていったのではないかと考えた。本単元では、「取材活動」と「語り部の人から聞く」という二つの学習方法が、そのあとの授業の中の考える場面で効果的であった。

歴史的分野の「近現代」を扱うこの単元では、生徒が取材をしたり、語り部の人から聞いたりすることにより、今までの学習を生かしてさらに「考える力」を深めることができた。

(4) 実践を終えて

今回の授業では「戦中・戦後の食事の写真」と、「終戦直後の川崎と復興後の川崎」の2枚の写真から時代背景を読み取るだけでなく、その当時の人々の思いや努力を考える場面を設定した。「前時の語り部の話から人々の生活や思いや願いについて考えたり、今日の生活をしている自分と比べて違いに気付いたりする生徒や、様々な事象をとらえる時に調べ活動から物事を考えていた生徒、資料をいろいろな視点で観る生徒など様々であった。」今回の授業を通して資料を読み取る力を生徒が身に付けると、時代背景やその時代の人々の生活の様子を多面的・多角的に見たり考えたりすることができるようになることが分かった。

研究のまとめと今後の課題

小学校の検証授業で活用した資料7「坂井義則 19歳 大学1年生 1945年8月6日広島生まれ」は、児童が本単元のねらいである「我が国のオリンピック開催が国民にとって戦後の復興と平和への願いに大きな役割を果たしたこと」を気付かせる資料としてとても有効であった。また、中学校の検証授業で活用した「戦後の生活ぶりに関する聞き取り調査」も戦後の国民の生活ぶりなどが実感でき、考えを深める資料として適切であった。考える場面においてもどのような資料の提示方法や時期がよいのか、生徒の考えがさらに深まる発問の仕方などを検証していく必要が今後の課題である。

考える場面の設定のための適切な資料の教材化と活用

考える場面の設定を考慮しての単元構成と、そのためにどのような資料を教材化することが有効なのかを検証授業の中で確かめられ、一定の成果が得られた。考える場面を設定するためには、まず何を考えさせたいのか、考えさせるための適切な資料は、その提示の仕方はどうか、そして考える時間を保障し多面的・多角的に考えさせる単元構成をすることが大切であることが本研究で得られた。考える「山場」を作り、単元により適切な資料の教材化を工夫し、児童生徒の「考え」の根拠となる資料等の活用を繰り返し学習の中に組み入れることで、資料活用能力と「考える力」は育っていくのではないかと考えた。

他の単元や分野における資料の活用と「考える力」の実践

本研究会議では歴史的分野に絞り研究と検証を進めたが、「考える力を深めるための適切な資料の教材化と活用」という検証から得た成果を、多くの単元や他の分野で実践していきたい。また他の単元において、聞き取り調査に代わる児童生徒が自分で収集した資料を話し合い活動にどう生かしていくかなども課題のひとつである。

評価方法・評価規準の見直し

評価規準については検証授業の単元に具体的な評価規準を設けた。単元の後半には資料活用を通して「考える力」を深める場面を意図的、計画的に設定した単元構成を行った。評価方法は観察、児童生徒のつぶやき、学習時に記入させたプリント記述等から評価し、資料活用の技能（読み取る力）や資料をもとに多面的・多角的に考える様子が明確になった。このことから「指導と評価の一体化」の大切さを改めて実感させられた。

資料活用の技能・表現

社会科においては資料活用の技能・表現力の育成が重視されており、課題を追究した過程を含めて結果を整理し報告書にまとめたり発表したりする活動により、資料活用の技能を高めるばかりでなく、豊かな表現力を育成する上で効果的であることが学習指導要領にも掲げられている。本研究会議では資料活用と「考える力」という視点で研究を進めた関係上、資料活用の技能・表現の観点についての研究が今後の残された課題となった。

最後に本研究を進めるにあたり、丁寧かつ適切なお指導、ご助言をいただいた諸先生方、また、検証授業にご協力をいただいた稲田小学校、塚越中学校の校長先生ならびに教職員の方々に、心より感謝申し上げます。

【参考文献】 北 俊夫著 『社会科の基礎・基本 選択学習の新しい提言』明治図書 2002年

【指導助言者】

川崎市立小学校社会科教育研究会長（川崎市立東小倉小学校長）

近藤 真市

川崎市立中学校教育研究会社会科部会長（川崎市立日吉中学校長）

久保田良一

川崎市教育委員会学校教育部指導主事

小島 康宏